

そのころ、若松町長（若松町は明治三十二年に若松市となります。）であった夫の季昌は、幼稚園をつくることには理解してくれて、資金集めにも協力してくれましたが、女学校を経営することには反対でした。

季昌は、若いころ、フランスのパリ万国博覧会に招かれたとき、イギリスなどのヨーロッパの国々をまわって、新しい知識を身につけてきた人でしたが、キリスト教には反対で、男女の平等を理想とした女学校の教育を理解してはくれませんでした。

リンは五年間に二百円、協力者は五年間に五十円という予定でお金を出しあつて女学校の資金としました。もちろん、これで足りるはずもなかったもので、後には、町から補助金をもらつたり、教会で知りあつた人々に寄附をお願いしたり、また、借金までしたりして苦勞がつづきました。